

2022年7月26日 第51回研究報告会 宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利です。

本日の研究報告会にも、多くの皆様にご参加いただき、厚く御礼申し上げます。

当研究所では、「学術研究と実務的要請の橋渡し」という設立の原点を踏まえ、交通運輸分野及び観光分野の課題解決に資する政策提言に結実させる活動を強化するとともに、そのためにも不可欠な国際的な活動や海外の政府・学会等との連携の強化に取り組んでいます。

政策提言については、2020年度及び21年度の2か年にわたる研究成果について、本年3月に「観光を活用した持続可能な地域経営の手引」を発行し、また、本年9月には、ウェルビーイングを実現する新たなモビリティサービスに関する書籍も発行する予定であり、成果の幅広い普及に努めております。

また、持続可能な航空燃料(SAF)の導入促進や、IMOにおける船舶燃料のライフサイクルアセスメントのガイドラインの整備など、カーボンニュートラル関連の課題に関する提言を行い、政策当局の政策形成や関係業界の取組みの支援に努めてきたところです。

さらに、我が国の水際対策については、昨年7月及び11月の提言に加え、本年6月に、国際動向等を分析した上で、1日当たりの入国者制限の撤廃等によってG7諸国並みの国際的な人的往来の実現を図るべきとする具体的な提言を行い、メディアの記者会見などの機会を通じて積極的な発信を行いました。

一方、このような活動を充実させるためには、国際的な活動や連携を通じて得られた世界の最新の知見を活かし、より内容の濃い、かつ、グローバルなレベルの研究成果や政策提言につなげていくことが必要です。

このため、東京の本部と、当研究所の海外拠点である米国のワシントン国際問題研究所(JITTI)及び昨年4月にタイのバンコクに設置したアセアン・インド地域事務所(AIRO)との連携により、インド・太平洋地域を視野に入れた活動を重視して取り組みを進めてまいりましたが、さらに、欧州も視野に入れた活動を充実させるべく、今年度から新たに日本財団のご支援により創設されたグローバル調査・研究基金を活用して、欧州等における交通運輸及び観光分野に関する最新の政策や知見・実態について、今後継続的に調査・研究を実施していきます。

これと併行して、従来からの諸課題に加え、新型コロナウイルス感染症によるダメージを最も大きく受けている公共交通及び観光産業について、その事業革新と運営基盤の強化を図り、持続可能な公共交通サービスと質の高い観光の実現を目指すほか、デジ

タル技術の活用等によって、強靱で安定的かつ効率的なサプライチェーン・物流システムの構築を目指すなど、今年度から新たな研究を進めてまいります。

一方、海外の現地における活動は、2020年度及び昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大きな制約を受けていましたが、本年5月以降、私と奥田専務理事が、JITTI 及び AIRO とともに、インド、米国、タイなど現地において政府の要人や官民の交通運輸・観光関係者と会談を重ねているほか、当研究所の研究員が、海外における国際会議や国際学会のイベントに積極的に参加するなど、海外の関係者との間で顔の見えるハイレベルな関係の構築を図るための取組みを再開・強化しております。

さて、この研究報告会は、1997年に年2回開催する形でスタートし、今回が第51回目に当たります。2020年7月の第47回からは、新型コロナウイルス感染症の拡大に対応して、オンラインを活用しつつ開催しています。

当研究所のシンポジウム及びセミナーが外部有識者をお招きして議論を行う場であり、コロキウムが各研究員の研究発表及び討論の場であるのに対し、この研究報告会は、研究員による個人研究の成果を報告するものですが、前回から研究報告会にも討論の時間を設ける形といたしました。

具体的には、各研究報告に対しそれぞれ学識経験者から研究のポイントや意義等についてコメントをいただき、その後当研究所の山内所長がコーディネーターになり、学識経験者と研究報告者との間で討論を行います。

討論に十分な時間を割くため、今回は、初めての試みではありますが、計4名の研究報告を本日と29日の2日間に分けて実施することといたしました。

これにより、研究自体のレベルアップを図るとともに、ご参加いただいた皆様方のご理解を深め、課題の共有を進める一助となることを期待しております。

本報告会が、皆様方のお役に立つという目的にかなっているかどうか、ぜひ忌憚のないご意見をいただき、今後の当研究所の活動の改善・充実に活かしてまいりたいと考えております。

最後に、この場をお借りして、当研究所の活動に対し日頃より手厚くご支援を頂いている日本財団に厚く御礼申し上げます。

当研究所といたしましては、交通運輸及び観光分野の課題解決に資することを旨とする諸々の活動を通じて、今後より一層、皆様方のお役に立てるよう努力してまいりますので、引き続き、ご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、少々長くなりましたが、私の挨拶といたします。

本日は、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。

以上